

経済・金融 フラッシュ

09年4-6月期資金循環統計:

個人金融資産は前年比では7四半期連続でマイナスだが、前期比では4四半期ぶりに増加へ

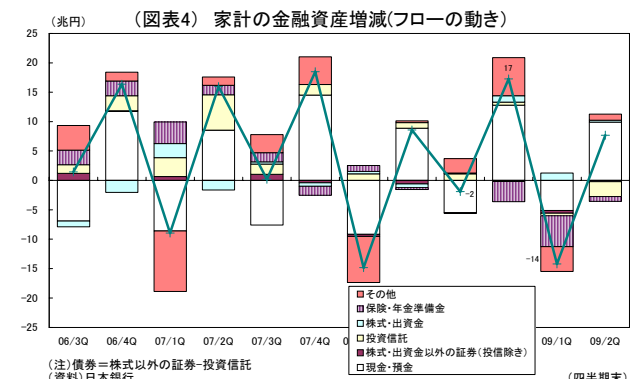
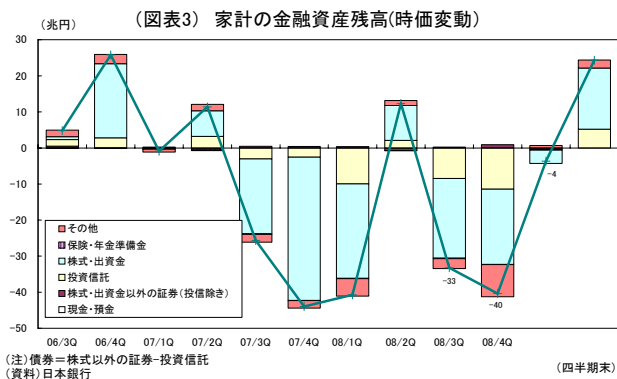
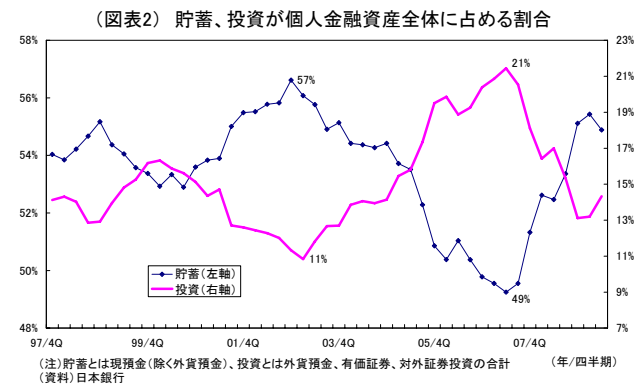
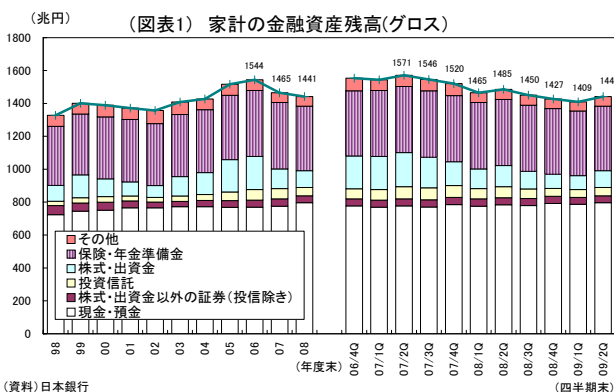
経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 個人金融資産残高(09年4-6月期末): 4四半期ぶりの増加

09年4-6月期末の個人金融資産残高は、1-3月期末から32兆円増の1441兆円となった。増加は4四半期ぶり、ただし、前年比では▲3.0%と7四半期連続のマイナスが続いている(図表1)。

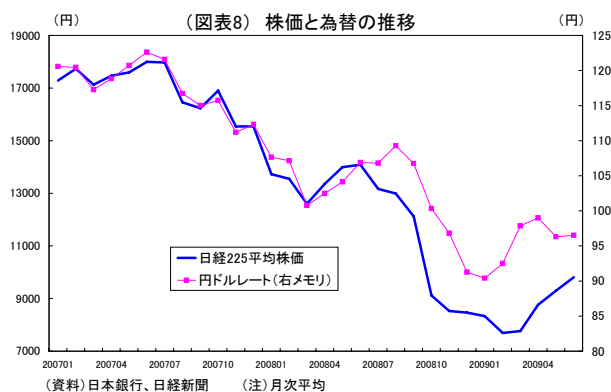
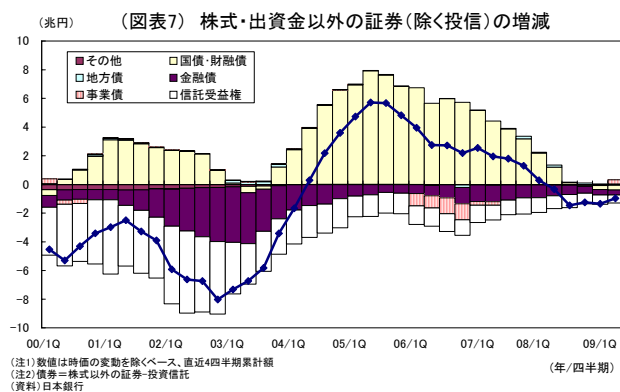
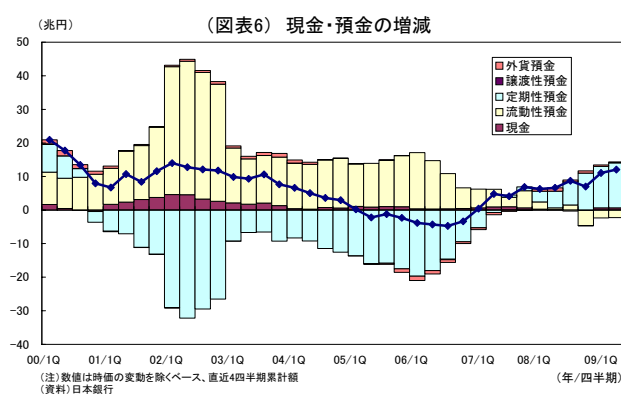
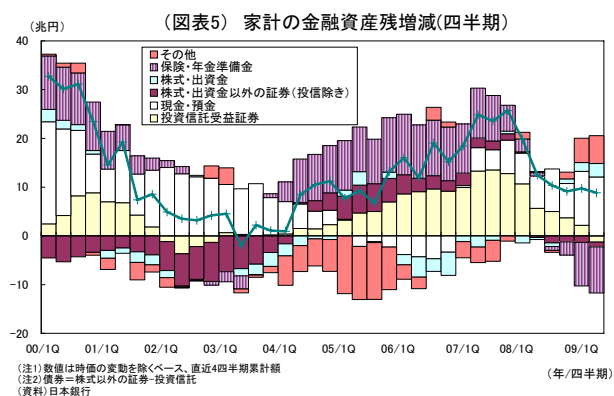
3月以降、株価が回復していることから、時価の増加が個人金融資産の増加に寄与している(図表3)。フローベースでも投資信託を中心に2四半期ぶりに増加となっている(図表4)。



2. フロー(時価変動を除いた流出入額)の動き: リスク回避の流れが継続

四半期ベースでフローの内訳を見るにあたり、季節要因を除くため、直近4四半期累計というやや長めの基調を捉えた動きをみると、03年度を底に金融資産への資金流入が増加してきたが、07年頃からその金額は減少傾向となっている(図表5)。

内訳を見ると、07年度以降、株安・円高を背景に投資信託への資金流入が大幅に減速、頭打ちになる一方で、現金・預金、特に定期性預金の増加が顕著であり、月次のマネーストック統計の動き同様、リスク資産から安全資産への資金移動は継続している(図表6~8)。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。